

広報事例研究会～企業広報のケーススタディ～

第三期報告書[2010年度]

2011年9月

日本広報学会

広報事例研究会～企業広報のケーススタディ～

第三期報告書[2010年度]

2011年9月

日本広報学会

■目次■

はじめに	1
【ケーススタディ1】	
海外広報における危機管理の課題	3
～味の素のインドネシア・ハラール事件～	
【ケーススタディ2】	
経営統合の交渉経緯:社内ステークホルダーの葛藤	21
～大手精密機械メーカー:HOYAとペンタックスの事例～	
【ケーススタディ3】	
経営統合の交渉破綻:「対等」な合併の座礁	39
～大手食品メーカー:キリンとサントリーの事例～	
【ケーススタディ4】	
新コーポレート・スローガンの認知度向上策	55
～キッコーマンの社歌による企業ブランド浸透事例～	
【ケーススタディ5】	
業界リーダーのミュージアムによる社会啓発活動	83
～花王ミュージアムによる広報事例～	
広報事例研究会 2010 年度実施状況	95

はじめに

「広報事例研究会」は、日本広報学会の研究助成を受けて、2006年度に「企業事例研究会」として活動を開始した。企業の実践的な広報戦略を理論的に研究することを目的としており、今年度は「広報事例研究会」と名称を改め、継続的に研究活動を行っている。

現在、日本広報学会は日本学術会議の「経営学」部門に所属しており、そもそも経営学の研究領域は、欧米流のビジネススクールに代表されるように、産学一体のケーススタディが主流となっている。ケーススタディでは、現実の企業ビジネスの現場で日常的に行われている戦略・戦術が研究題材となり、そしてその研究分析の成果が、ビジネスの現場で戦略的な思考を基にした判断に活かされるという関係にある。「広報学」は、企業戦略、組織コミュニケーション、IR、危機管理等、幅広い経営課題を包含しているわけであるから、やはり研究題材としてのケーススタディ素材を集めることは不可避だと考え、「論より証拠」を集めるための本研究会を発足させた。

ビジネススクールのケースを手本としているので、総花的な「○○会社の戦略」ではなく、各事例を掘り下げて、各戦略的局面でどのような意思決定を行い、どんなコミュニケーション戦略をとったのか、具体的な分析を行うことに主眼を置いた。特に今回は、味の素のインドネシア事件やキリン&サントリーの合併頓挫、HOYA&ペンタックスの経営統合等、クライシス発生やM&Aの事例についても踏み込んだ研究題材を集めることができたのが大きな成果である。同じ「経営統合」の課題でも、業種や規模、そして上場企業やオーナー企業等により交渉過程のコミュニケーション・ダイナミズムが異なり、社員・取引先・投資家・創業家等のステークホルダーを巻き込んだコーポレート・コミュニケーションのデリケートな側面を浮き彫りにする。報告書に記せなかった部分も残るが、かなり核心に迫る研究題材を集めることができたのではないかと自負している。

この本報告書は、2010年度に行った研究会活動の概要であり、第一期報告書(2006～2007年度)、第二期報告書(2008～2009年度)に続く第三期報告書となる。本来、第三期報告書は2010～2011年度の活動内容をまとめて刊行予定だったが、2011年3月11日に東日本大震災が発生し、広報学者の立場としては、タイムリーな震災と広報の課題を研究することが急務だと考え、日本広報学会の緊急震災プロジェクトに応募したところ、幸いにしてこの事例研究会にプラスアルファの研究助成が認められた。そこで2011年からは研究会の活動を震災事例中心にシフトし、2010年度の研究活動は単年度で報告書として刊行することにしたという経緯がある。第三期に入ると各事例が文字通り厚みを持っており、5事例だけでも第一期(8事例)、第二期(10事例)と遜色ないほど充実した報告書となった。

最後に、本研究会のために、貴重な時間を割いて話をしていただいた企業の方々、そして講師紹介や執筆をしてくれた会員の方々に、この場を借りて深く感謝申し上げたい。毎回、質疑応答の時間は予定を延長して約1時間も単刀直入な質問に答えていただき、それでも足りずに研究会終了後の懇親会で議論を深めたこともあった。この研究会では、会員

の方々に、①ケースの執筆、②講師の紹介、③事例の発表、のいずれかをお願いしており、これらを分担して事例を紹介してくれた会員の方々や、積極的に研究会に参加して発言し、場を盛り上げていただいた皆様がいたからこそ、このような内容の濃いケースを聴取することができ、充実した報告書が完成できた。改めて謝意を表したい。

前述のように、2011年度は震災関係の広報事例分析を中心に活動しているが、実は広報を題材として研究テーマはまだまだ無数にある。今後も継続的に事例研究を行い、広報学研究の発展の一翼をわずかでも担えれば光栄である。

日本広報学会 2010年度「広報事例研究会」

主査・駒橋恵子（東京経済大学）

広報事例研究会 2010年度会員一覧（敬称略・五十音順）

石橋陽（京都産業大学）
江良嘉則（エイレックス）
遠藤芳信（マナスコ）
大島慎子（筑波学院大学）
大森康晴（共同PR）
尾関謙一郎（明治学院大学）
小野豊和（東海大学）
神島由子（エムユーズ）
黒田明彦（電通PR）
甲田安彦（元味の素）
駒橋恵子（東京経済大学）
齋藤昭雄（吉田秀雄記念事業財団）
田代順（ミラ・ソル）
辻田邦彦（トークス）
永田純代（ベネッセ・コーポレーション）
萩原昇（NTTエレクトロニクス）
東村篤（四日市大学）
松枝健夫（パナソニック・歴史街道推進協議会）
村上信夫（放送作家・立教大学）
矢野充彦（グリーンヒル研究所・麻布大学）
山田達雄（日本広報学会）

※ご協力いただいた方々や報告書の所属・肩書きは、研究会当時のものです。敬称略で掲載させていただいたことをご容赦下さい。